（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月8日
（前回公表年月日：令和4年12月9日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
九州医療スポーツ専門学校	平成20年3月31日	赤木恭平	〒　802－0077 （住所）福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1－2 （電話）093－531－5331
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際学園	昭和34年10月13日	水嶋昭彦	〒　802－0002 （住所）福岡県北九州市小倉北区京町3丁目9番27号4階 （電話）093－513－5931

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養課程	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	平成27年文部科学省告示第13号	－

学科の目的	専門職に必要な知識・技能を教授することにより、地域医療の一端を担い、安全なるスポーツ活動のサポートを通して国民の健康増進に貢献する有能な人材を養成することを目的とする。
認定年月日	平成29年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	94	72	0	22	0	0
		単位					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	41人	0人	5人	15人	19人

学期制度	■前期 ： 4月 1日～ 9月30日 ■後期 ：10月 1日～ 3月31日	成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準 ： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可の4段階評定 評価の方法 ： 試験等による総合評価
長期休み	■夏期 ： 8月上旬から 8月下旬までの間で本校が定めた期間 ■冬期 ：12月下旬から 1月上旬までの間で本校が定めた期間 ■春期 ： 3月下旬から 4月上旬までの間で本校が定めた期間	卒業・進級条件	卒業要件 ： 所定の修業年限以上在学し、履修しなければならない授業科目の単位の全てを修得 進級要件 ： 単位制につき未修得単位授業科目の有無に拘わらず進級
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、保護者連絡を実施	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭 ・ 障がい者スポーツのボランティア活動 ■サークル活動 ： 有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） フィットネスクラブ、パーソナルトレーニングジム、幼児体育指導企業、整骨院など ■就職指導内容 各教員による就職指導 ■卒業者数 ： 14 人 ■就職希望者数 ： 6 人 ■就職者数 ： 6 人 ■就職率 ： 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ： 43 % ■その他 卒業者に占める就職者以外の者 ： 8 人 （内訳）進学＝6人、家事手伝い＝2人 （令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名 ／ 種別 ／ 受験者数 ／ 合格者数 健康運動実践指導者 ／ ③ ／ 7人 ／ 6人 ジュニアスポーツ指導員 ／ ③ ／ 14人 ／ 14人 トレーニング指導者 ／ ③ ／ 14人 ／ 14人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 健康運動実践指導者＝（公財）健康・体力づくり事業団 ジュニアスポーツ指導員＝（公財）日本スポーツ協会 トレーニング指導者＝（NPO法人）日本トレーニング指導者協会
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 13 % 令和 4年 4月 1日時点において、在学者 16名（令和 4年 4月 1日入学者を含む） 令和 5年 3月31日時点において、在学者 14名（令和 5年 3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 毎週、学生が作成するスケジュール表のチェックをし、学習状況を確認している。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度 ： 有 ※有の場合、制度内容を記入 ／ 全国高校総体、国民体育大会出場またはそれに準ずる大会出場経験や、プロスポーツまたはアマチュアスポーツにおいて実績のある者。入学金および授業料を、実績に応じて20万円～全額を免除。 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 ／ 前年度給付実績なし		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価 ： 無 評価団体 ： － 受審年月 ： － 評価結果を掲載したホームページＵＲＬ －		
当該学科のホームページURL	https://www.kmsv.jp/trainer/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの必要性・重要性の理解が進むに連れ、トレーナーに期待されるニーズもより深化している。そこでトレーナーに対する最新のニーズについて教育課程編成員会を通して関連する企業や団体から提案してもらい、それらを学科のカリキュラム等に反映させることで職業教育の水準向上を図ることを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校は、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業、大学等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を含む。）に活かすことを目的に学科毎に教育課程編成委員会を設置する。委員会は6月と11月の年2回の開催を原則とし、業界における人材の専門性等の動向、国または地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能等について審議する。委員会から提出された提言は、学科会議において協議し、教育課程に反映させるように努める。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年6月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
吉井　剛	障がい者スポーツ指導者協議会 （九州ブロック トレーナー部会部長）	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	①
長瀬　亮昌	株式会社WAFA（代表取締役）	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
浪尾　敬一	九州医療スポーツ専門学校（副校長）		
味村　吉浩	九州医療スポーツ専門学校（副校長）		
桑野　幸仁	九州医療スポーツ専門学校（教務部長）		
寺本　敦司	九州医療スポーツ専門学校（アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科学科長）		
松岡　沙也香	九州医療スポーツ専門学校（アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員）		
川上　吉晃	九州医療スポーツ専門学校（アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員）		
都地　英雄	九州医療スポーツ専門学校（アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員）		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （6月、11月）

（開催日時（実績））

令和4年度第1回　令和4年6月20日　17:00～19:00

令和4年度第2回　令和4年11月28日　17:00～18:50

令和5年度第1回　令和5年6月5日　17:00～19:00

令和5年度第2回　令和5年11月（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会で提起された主な意見

（令和4年度第1回）
①（コーチング学）（トレーナー実習1～3）より一層のコミュニケーション能力の向上を図るべきである。
②（トレーナー実習1～3）早期の現場実習先の確保に努めるべきである。
③（コーチング学）（トレーナー実習1～3）（生涯スポーツトレーナー実習1～2）プレゼンテーション能力のさらなる向上を図るべきである。
④（トレーナー実習1～6）社会人としての必要な知識習得について検討すべきである。

（令和4年度第2回）
①（コーチング学）（トレーナー実習1～6）目標達成に必要な成長計画の立案が望ましい。
②（スポーツトレーナー実習1～6）段階的なアスレティックトレーナースキルを獲得すべきである。
③（スポーツトレーナー現場実習1～6）スマートフォンを用いた評価ツールの導入について検討すべきである。

（令和5年度第1回）
①（トレーニング指導者実習）（スポーツトレーナー実習1～6）動作分析機器、解析装置、測定機器などを導入し、測定・評価・分析までを実施して、トレーニングプログラムの立案に至る講義展開を検討すべきであると考えられる。
②（スポーツトレーナー実習1～6）（スポーツ競技各論）まずは、情報端末デバイスを使用する機会を増やしていく必要があると考えられます。授業内でレポート作成、発表資料の作成といった講義であり、情報端末デバイスに触れる講義を検討すべきであると考えられる。
③（トレーニング指導者実習）（スポーツトレーナー実習1～6）現在、学生らの情報入手方法が限られた分野でのみ行われていると考えられる。今後、情報入手をさまざまな方法でアンテナを立たせていけるようなきっかけを検討すべきであると考えられる。

提起された意見に対する対応（反映させた授業科目等）

（令和4年度第1回）
①（コーチング学）（トレーナー実習1～3）現場実習へ参加する際に、いかに相手との信頼関係を築けるか。人の身体に触れるということが多いアスレティックトレーナーとして非常に重要な能力であります。授業内でコミュニケーションスキル（挨拶、傾聴など）を向上させていくために、ロールプレイングをさらに充実していきたいと考えます。現在、コーチング学の講義で座学を中心に実施していますが、現場実習に参加していくための事前指導の一環として取り入れていきたい。
②（トレーナー実習1～3）現場実習の充実を図るために、早急に高校をはじめとした実習先の確保をしていきたい。そのために広報部へ協力を仰ぎ、高校との打ち合わせの機会を設け、高校が何を求めているのかしっかりとニーズを把握したい。そして、学生らが将来、どのようなアスレティックトレーナーであり、スポーツ指導者像を描いていくのか。各学生の目標とする未来の実現に向けて、取り組んでいきたい。
③（コーチング学）（トレーナー実習1～3）（生涯スポーツトレーナー実習1～2）学生の現状を振り返ってみると、自分の考えを文章にすること、言葉にすることが苦手なようである。それを克服することは、学生らの将来に大いに意味のあることだと考える。よって、本学科のカリキュラムに用意されている科目の中で、そのような授業展開をしていくことができるのではないかと考える。特にコーチング学、トレーナー実習1～3、生涯スポーツトレーナー実習1～2といった科目において、より人の前で話をするという機会を設けることを検討していきたい。そこで、学生らが自分自身の言葉で、何を伝えたいのかということを意識した授業展開を意識していきたい。
④（トレーナー実習1～6）教育課程編成委員会でも意見として挙げられていた自分の目標の明確化など、将来の自分自身の姿をイメージできるようにさせたい。そういったイメージができることで目標が設定され、それに向けて勉学に励むことは可能となるだろう。よって、目標設定、目標の達成までの過程などを計画させられるようにしていきたい。そして、就職につなげていくために、求人票の見方、ビジネスマナーなどの授業を検討していき、社会に貢献できるスポーツ指導者の育成をしていきたい。ただ、必要に応じて新規科目として開講していくことも検討していきたい。

（令和4年度第2回）
①（コーチング学）（トレーナー実習1～6）この提言については、継続的に実施していく必要性をご指摘頂きました。今後も、学生たちが自分の掲げた目標に向け、どのように進めていき、達成していくのかを教員はサポートしていきたい。また、学生と教員間の共通ツールとしてスケジュール表がありますが、必要に応じてフォームなどを検討していくこととしたい。
②（スポーツトレーナー実習1～6）今後、スポーツ現場実習を進めていく上で、学生たちに対して現場に出て行く上で必要なスキルがどの程度できているかを確認できるよう基準作りをしていく。学生たちが本学科に入学してから卒業までに習得すべきものを明確にしていけるようにしたい。
③（スポーツトレーナー現場実習1～6）（トレーニング指導者実習）スポーツトレーナー現場実習全般、トレーニング指導者実習については、選手であり、自分自身の動きの評価をする授業を取り扱っている。獲得すべき動きの確認などをスマートフォンなどで動画撮影していき、正しい獲得すべき動きのフォームなどを客観的に理解できるようにしていく。また、スポーツトレーナー現場実習において、テクノロジーを用いての講義導入を検討していきたい。

（令和5年度第1回）
①（トレーニング指導者実習）（スポーツトレーナー実習1～6）今回、今後の授業展開を検討していく上で、動作分析機器、解析装置、測定機器などの購入を検討していく。今後、業界のニーズを把握していき測定・評価・分析までを実施し、トレーニングプログラム立案までできるような講義展開を検討していきたい。
②（スポーツトレーナー実習1～6）（スポーツ競技各論）学生に対し情報端末デバイスを使用していく授業内容を検討していきたい。Word、Excel、PowerPointなどを用いて、発表資料の作成、データ分析をしていくようなカリキュラムを検討していきたい。また、次年度からは新入生に情報端末デバイスの使用を案内し、事前購入していくような流れを作っていく。
③（トレーニング指導者実習）（スポーツトレーナー実習1～6）情報収集能力を高めていくために様々な方法を用いて、収集していく能力を高めさせたい。そのため、学生らにきっかけを与えていけるような話題提供をしていきたい。授業内はもちろんであるが、授業外でも学生らに意識づけしていけるような習慣を身につけさせていきたい。また、正しい情報の取り捨て選択をしていける能力育成を検討すべきであると考えられる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等にあたる専任教員には、前線で活躍している臨床経験豊かなスポーツトレーナーを選定する。専門科目の授業の一部を担当する外部講師の選定に当たっては、スポーツトレーナーとしての実践経験豊富な者を選定する。総合実習をはじめ、実技・演習などは、できる限り実践の場ないしは実践を想定した環境にて行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等と連携して行う科目として、コンディショニング1・3が挙げられる。実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして指導経験豊富な教員に出講依頼している。担当教員とは、業界で必要とされる人材、今後の動向についての意見交換を行っている。将来、学生らがスポーツ現場で必要とされる人材の育成を第一の目標として、企業等との連携を図っている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンディショニング1	各競技におけるコンディショニング方法を身につけ、プログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。	有限会社ケイ・トレーナーズ
コンディショニング3	コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深くし、体得することにより予防的アプローチとして実践で使え指導できるようになることをねらいとする。	有限会社ケイ・トレーナーズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の教育目標達成のために必要な教員の研修・研究支援を積極的に推進する。そのための教職員研修規程を設けている。支援の内容を、学生教育に資することと各教員の専攻する専門領域の学究に資することとに大別する。学生教育に資することとして、教育力向上が期待できるさまざまな研修会への参加や学会への入会が想定される。同時に鍼灸師が働く現場研修を通しての現場現状の把握などが想定される。教員の専門領域の学究に資することとしても前述と同様なことが想定される。本校のFD（Faculty Development）の一環として、学生教育に資することを目的に外部講師による講義やワークショップを行う。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　第11回JINスポーツ外傷・障害勉強会　　連携企業等：（一社）JINメディカルクラブ
期間：　令和4年4月30日（土）　　対象：学科専任教員1名
内容　足関節捻挫の診断と初期治療・リハビリ

研修名：　JOSKAS-JOSSM 2022
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　　連携企業等：（一社）日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
日本整形外科スポーツ医学会
期間：　令和4年6月16日（木）～18日（土）　　対象：学科専任教員1名
内容　学会テーマ）Spread Your Wings －飛翔－

研修名：	2022年度JFAフィジカルフィットネスC級コーチ養成講習会	連携企業等：	(公財)日本サッカー協会
期間：	令和4年7月9日(土)～10日(日)、 7月16日(土)～17日(日)	対象：	学科専任教員1名
内容	サッカーで要求される体力、運動生理学		
研修名：	令和4年度アスレティックトレーナー連絡会議関西ブロック 研修会 第1回研修会	連携企業等：	(公財)日本スポーツ協会
期間：	令和4年9月3日(土)	対象：	学科専任教員1名
内容	和歌山県のスポーツ傷害に対するスポーツドクターの取り組み　ほか		
研修名：	ハイパフォーマンススポーツ・シンポジウム	連携企業等：	独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター
期間：	令和5年2月15日(水)～3月15日(水)	対象：	学科専任教員1名
内容	レジリエントなアスリートサポートシステムの構築による個別パフォーマンスの最適化		
研修名：	スポーツ救命ライセンス講習会	連携企業等：	(一社)日本アスリートライフサポート協会
期間：	令和5年3月19日(日)	対象：	学科専任教員1名
内容	突然死、脳震盪、熱中症など		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	令和4年度共通科目「コーチデベロッパー」養成講習会(1)	連携企業等：	(公財)日本スポーツ協会
期間：	令和4年10月16日(土)～17日(日)	対象：	学科専任教員1名
内容	プレーヤーズセンタードなコーチングを実践しよう　ほか		
研修名：	令和4年度共通科目「コーチデベロッパー」養成講習会(2)	連携企業等：	(公財)日本スポーツ協会
期間：	令和4年12月10日(土)～11日(日)	対象：	学科専任教員1名
内容	ウエイクアップアクティビティ　ほか		
研修名：	令和4年度アスレティックトレーナー専任教員講習会	連携企業等：	(公財)日本スポーツ協会
期間：	令和5年2月9日(木)	対象：	学科専任教員1名
内容	JSPO-AT専任教員の役割　ほか		
研修名：	令和4年度運動実践指導者養成校研修会	連携企業等：	(公財)健康・体力づくり事業財団
期間：	令和5年3月14日(火)	対象：	学科専任教員1名
内容	「健康づくりのための身体活動基準2013」および「身体活動指針(アクティブガイド)」改定案と新たな基準・指針案　ほか		
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	NSCAジャパンADウェビナー	連携企業等：	特定非営利活動法人NSCAジャパン
期間：	令和5年4月27日(木)	対象：	学科専任教員1名
内容	パーソナル指導～フィットネスエクササイズの注意ポイント～		
研修名：	JOSKAS-JOSSM 2023 第15回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 第49回日本整形外科スポーツ医学会学術集会	連携企業等：	(一社)日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 日本整形外科スポーツ医学会
期間：	令和5年6月29日(木)～7月1日(土)	対象：	学科専任教員1名
内容	学会テーマ)和－スポーツ整形外科の伝承と革新－		
研修名：	第12回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	連携企業等：	(一社)日本アスレティックトレーニング学会
期間：	令和5年7月8日(土)～9日(日)	対象：	学科専任教員1名
内容	VUCA時代のアスレティックトレーニングを問う－予測困難な未来を拓く創造と革新とは		

研修名： 第73回日本体育・スポーツ・健康学会　　連携企業等：(一社)日本体育・スポーツ・健康学会

期間： 令和5年8月30日（水）～9月1日（金）　　対象：学科専任教員1名

内容 知徳体を育む「体育とスポーツ」の未来

研修名： 第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会　　連携企業等：(一社)日本臨床スポーツ医学会

期間： 令和5年11月11日（土）～12日（日）　　対象：学科専任教員2名

内容 連携と進化

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 令和5年度運動実践指導者養成校研修会　　連携企業等：(公財)健康・体力づくり事業財団

期間： 令和6年3月（予定）　　対象：学科専任教員1名

内容 （未定）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を推進するために、学則第30条の（7）および細則第76条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役職員・高等学校の校長・同窓会役員の学外関係者のみで組織し、学内組織である「自己点検・自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討・協議することを責務とする。本校は、学校関係者評価委員会からの提言等をもとに、より良い学校を訴求していく。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想
（2）学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム
（3）教育活動	業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準 指導体制
（4）学修成果	就職率、資格取得率、退学率、社会的活動
（5）学生支援	就職・進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、 保護者連携他
（6）教育環境	施設・設備、学外実習等、防災体制
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考基準、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
（9）法令等の遵守	設置基準、個人情報、自己評価と公開
（10）社会貢献・地域貢献	学校教育資源の活用、ボランティア活動
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で提起された意見

①（基準3）備考欄に「一部の授業評価（授業観察）しかできていない」と記載されているが、全ての学科にするための改善策を考えるべきである。
②（基準8）適正に自己点検・自己評価していることがわかるように、自己評価報告書の様式を工夫して頂きたい。
③（基準8）内部質保証の観点から、「内部質保証委員会」などを設置して、組織的に取り組むようにして頂きたい。
④（基準10）改善すべきことが記載されているいうことで、具体的なアクションプランを提示して頂きたい。

提起された意見に対する対応

①（基準3）全ての学科において質の保証を目的とした授業評価（授業観察）を実施する。
②（基準8）ご評価頂きやすい自己評価報告書の作成に努める。
③（基準8）内部質保証委員会を設置して、その取組みについて協議する。
④（基準10）改善策については今後アクションプランを策定して、提示するように努める。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
西原　達次	公立大学法人九州歯科大学(理事長・学長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	関係団体 役職員
谷川　陽一	福岡県立小倉商業高等学校(校長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	地域の教育 関係者
棟安　正人	北九州市小倉旅館ホテル組合(副組合長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	地域団体 役職員
大森　弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会(会長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生 同窓会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他(　　))

URL：　https://www.kmsv.jp/publication/

公表時期：　令和5年7月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では平成22年度より学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員にフィードバックすることをもって自己点検・自己評価と位置づけてきたが、今後はそれを前述「4.(2)専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠した内容にまで拡大し、そのすべての結果を本校の学校関係者評価委員会に提示する。学校関係者評価委員会から得られた提言に対する本校および学科の見解や対応等については、本校のホームページで企業等の学校関係者に対して情報の提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、学校の特徴、施設設備、教育目標および授業実施計画、校長名、所在地、連絡先等、その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	学科紹介、資格取得内容、シラバス、募集要項(選考方法と募集定員)
(3)教職員	教育情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組、実技・実習等の取組、就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	指定寮およびアパート等紹介、学生相談、就学支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検自己評価・学校関係者評価委員会評価
(10)国際連携の状況	外国の学校等の交流状況
(11)その他	国家試験合格率

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他(　　))

URL：　https://www.kmsv.jp/publication/

公表時期：　令和5年7月

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツ社会学	■スポーツ指導者として、「スポーツの意義と価値」について改めて考えてみる。 ■スポーツ指導者として、「スポーツ権」について学習していく。 ■スポーツ組織の運営、あり方について学習し、安定した組織運営のマネジメントを学習していく。	1前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツ倫理学	■スポーツ指導者の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。 ■スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを学習し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを学習していく。 ■スポーツインテグリティとは何かを学習し、スポーツ界全体を見直すために必要なものを学習していく。	1後	16	1	○			○		○		
3	○			スポーツ指導学	■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者として、安全なスポーツ環境を構築・問題発生時の対処法の流れについて学習していく。 ■各年代（ジュニア期、中高年）におけるコーチングの留意点、運動プログラム作成に必要なことを学習していく。 ■ハイパーパフォーマンスとは何かを理解し、それを実践していく上で、コーチに必要なものは何かを学習していく。	1前	30	2	○			○		○		
4	○			コーチング学	■公認スポーツ指導者に最も必要とされる基本的な思考や態度・行動について学習し、グッドコーチに求められる人間力を学習していく。 ■コーチに求められる役割、知識・スキルについて学習していく。 ※コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキルなど	1後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
5	○			トレーニング科学１	■スポーツトレーニングの基本的な考え方・理論体系について学習していく。 ■トレーニングの原理・原則（全面性、意識性、斬新性、個別性、反復性）について学習していく。 ※全面性、意識性、斬新性、個別性、反復性 ■トレーニングの種類について学習していく。 ※形態別分類、体力要素による分類	1後	30	2	○			○			○	
6	○			保健体育理論１	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な運動指導を行えることが、今後の健康維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。	1前	32	2	○			○		○		
7	○			保健体育理論２	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。これからの子どもから高齢者の特徴について学習し、それらの人々を健康維持増進に導いていける指導者養成が必要である。それに伴う必要な知識を実技を交えて学習していく。	1後	32	2	○			○		○		
8	○			スポーツ競技各論	・アスレティックトレーナー実技試験の試験科目になりうる競技種目を中心に競技特性・ルール・起こりやすい傷害・トレーニング方法について学習していく。 ・実際のシチュエーションを想定したトレーニングプログラムの構築を行う。	1前	30	2	○			○			○	
9	○			スポーツ医学１	■スポーツと健康とのかかわりについて学習していく。 ■アスリートの健康管理について学習していく。 ■アスリートの内科的障害について学習していく。 ■女性アスリートの障害と対策について学習していく。 ■外傷・障害の予防について学習していく。 ■コンディショニング、救急蘇生法について学習していく。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
10	○			スポーツ栄養学１	■スポーツ指導の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。 ■スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを学習し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを学習していく。 ■スポーツインテグリティとは何かを学習し、スポーツ界全体を見直すために必要なものを学習していく。	1前	16	1	○			○			○	
11	○			スポーツ心理学１	■動機づけと競技成績との関連性を把握し、動機づけを高める方法などについて学習していく。 ■スポーツ活動や運動のパフォーマンスを促進するために必要不可欠な心理的スキルを学習していく。 ■メンタルトレーニングの基礎を学習していく。 ■プレッシャーやあがりが発生するメカニズム、その対処法の基礎を学習していく。	1前	24	1	○			○			○	
12	○			トレーナー基礎演習	他教科の復習も踏まえ、解剖学を中心にスポーツ指導者として必要な基礎知識を身につける事と身につけた知識をアウトプットすることを目的とする。	1後	30	2	○			○		○		
13	○			アスレティックトレーナーの役割	スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解し、アスレティックkトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど各分野の専門家と連携をとって選手をサポートするなど現場で活躍する上で必要な知識および社会的秩序や倫理観を身につけることをねらいとする。	1前	30	2	○			○		○		
14	○			トレーニング科学２	・トレーニングの基本的概念 ・トレーニングの種類と科学的基礎 ・トレーニング効果の評価 ・トレーニングと性 ・トレーニングと発育・発達 ・トレーニングと老化 ・トレーニングと栄養 ・疲労と疲労回復 ・オーバートレーニング	1後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			トレーニング指導者実習	・各マシントレーニングの使用方法・注意点を理解し、正しいフォームを身につける。 ・対象者に対し、効果的かつ安全に指導ができるようになる。 ・トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる。	1前	40	1			○	○			○	
16	○			バイオメカニクス	・バイオメカニクス基本理論（筋の仕組みと働き／筋活動のエネルギー供給・運動の指令と調節・身体の構造と運動・身体運動の力学的基礎） 運動の力学的基礎） ・バイオメカニクスの実際－各種動作のバイオメカニクス－（歩行動作／走動作・跳動作・投動作・蹴動作・滑動作・泳動作・漕動作）	1後	30	2	○			○			○	
17	○			検査と測定の手法１	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。	2前	20	1	○			○			○	
18	○			検査と測定の手法２	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。	2前	20	1	○			○	○		○	
19	○			運動処方論	健康の維持・増進のための運動が行われている。しかし運動強度、頻度、時間など実施方法を間違えると健康の維持どころか健康を害する。正しい運動の処方方法を身につけ、運動処方の理論と実際について実習を含めて学んでいく。	2後	30	2	○			○				
20	○			体力測定法	健康・体力に関連するさまざまな体力要素（身体蘇生、全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性）について、測定方法の実習とその評価を行い、スポーツ指導者としての基礎的能力を養う。	2前	16	2	○			○		○		
21	○			テーピング・手技療法実習	スポーツ指導者に必要なテーピングとストレッチング（パーソナル）を習得する。	1前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
22	○			トレーニング指導者理論１	一般人からトップアスリートまで、あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導するための知識を身につけることを目標とする。	1前	30	2	○			○			○	
23	○			トレーニング指導者理論２	トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる医科学的な基礎を構築する。	1後	30	2	○			○		○		
24	○			運動生理学	・筋収縮とエネルギー供給 ・筋繊維の種類とその特徴 ・神経系による運動の調節 ・運動と呼吸 ・運動と循環 ・運動と内分泌 ・運動と代謝 ・身体組成と肥満 ・運動時の水分・栄養摂取 ・運動と体温調節 ・運動と環境 ・運動と発育・発達 ・運動と老化（加齢）	1前	30	2	○			○			○	
25	○			運動器の解剖と機能１	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1前	20	1	○			○			○	
26	○			運動器の解剖と機能２	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1前	20	1	○			○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
27	○			運動器の解剖と機能３	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1後	20	1	○			○			○	
28	○			スポーツ栄養学２	・アスリートの身体組成、からだ作りとウェイトコントロール ・トレーニングスケジュール、競技特性と食事、コンディショニングと栄養摂取、水分補給 ・栄養欠陥に基づく疾病と対策 ・特殊環境下における栄養ケア ・サプリメントの利用時の留意点 ・アスリートの栄養教育	2後	30	2	○			○			○	
29	○			スポーツ心理学２	１）スポーツと認知、２）動機づけ、３）目標設定、４）運動の学習、５）スポーツと発達、６）競技者の性格と態度、７）パーソナリティ、８）メンタルトレーニング、９）スポーツカウンセリング	2前	30	2	○			○			○	
30	○			救急処置	救急処置の基本的知識を学ぶことを目標とする。	1後	30	2	○			○		○		
31	○			ＡＴ概論１	運動器の解剖と機能を習得する。	2前	30	2	○			○		○		
32	○			ＡＴ概論２	ＳＡＱトレーニングを状況に応じて適切に指導することができる。	2前	30	2	○			○		○		
33	○			ＡＴ概論３	ＡＴ理論試験対策で救急処置と解剖学を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。	2前	30	2	○			○		○		
34	○			ＡＴ概論４	日本スポーツ協会認定ＡＴ理論試験においてのスポーツ医学範囲の出題傾向・理解を深める。	2後	20	1	○			○		○		

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
35	○			ＡＴ概論５	ＡＴ理論試験対策でアスレティックリハビリテーションを学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。	2前	30	2	○			○		○		
36	○			スポーツ動作の観察と分析	アスレティックトレーナーが評価で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、６つのスポーツ動作についてバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的と体力的要因を説明できる能力を養うことを目的とする。	2前	20	1	○			○			○	
37	○			コンディショニング１	各競技におけるコンディショニング方法を身につけ、プログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。	2前	30	2	○			○			○	○
38	○			コンディショニング２	各競技におけるコンディショニング方法を身につけ、プログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。	2前	30	1			○	○			○	
39	○			コンディショニング３	コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深くし、体得することにより予防的アプローチとして実践で使え指導できるようになることをねらいとする。	2前	30	1			○	○			○	○
40	○			ジュニアスポーツ理論	・子どもたちの安心し、成長に合わせたスポーツ環境を提供していく上で、必要なものを学習していく。 ・生涯にわたりスポーツに親しむ土壌を作る上で、動きの発達、心理、栄養、医学といった方面の知識を習得していくことを目標としていく。	2後	30	2	○			○		○		
41	○			ジュニアスポーツ実技	理論で学習した内容を踏まえ、子どもたちの運動遊びの選定方法を知り、指導場面に活かせるようになる。そして、安全管理の下、子どもたちが主体的に取り組むことができるようコーチングスキルの獲得を目指していく。	2後	16	1			○	○		○		

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
42	○			ＳＡＱトレーニング実習	・ＮＰＯ法人日本ＳＡＱインストラクターレベル１資格取得を目標とする。 ・Ｓ＝Speed：スピード（重心移動の速さ）、Ａ＝Agility：アジリティ（運動時に身体をコントロールする能力）、Ｑ＝Quickness：クイックネス（刺激に反応し速く動きだす能力）の理論を実技を通して学習していく。	1前	30	1			○	○		○		
43	○			アスレティックリハビリテーション１	・アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。 ・アスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズの基礎理論と方法について学び、補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学ぶ。 ・対象者に妥当なエクササイズ指導と物理療法の正しいアドバイスができるようにすることをねらいとする。	2前	30	2	○			○			○	
44	○			アスレティックリハビリテーション２	・検査・測定の評価とアスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義となる。 ・例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 ・例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。	2前	30	2	○			○			○	
45	○			アスレティックリハビリテーション３	・検査・測定の評価とアスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義となる。 ・例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 ・例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。	2前	30	2	○			○			○	
46	○			スポーツ外傷と障害１	・スポーツ外傷・障害総論 ・上肢のスポーツ外傷 ・体幹のスポーツ外傷 ・整形外科的メディカルチェック	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
47	○			スポーツ外傷と障害２	・下肢のスポーツ外傷・障害 ・重篤な外傷 ・年齢・性別による特徴 ・整形外科的メディカルチェック	1前	30	2	○			○			○	
48	○			スポーツ医学２	・アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ・感染症に対する対応策 ・アスリートに見られる病的現象・特殊環境のスポーツ医学 ・年齢・性別による特徴 ・特殊環境のスポーツ医学 ・内科的メディカルチェック ・ドーピングコントロール	2前	30	2	○			○			○	
49	○			救急処置実習	日本赤十字社救急法救急員の資格取得を目標とする。	1後	30	1			○	○			○	
50	○			トレーナー実習１	スポーツ現場の見学を通してアスレティックトレーナーとして必要な資質を身につける事を目的とする。	1前	30	1			○		○	○		
51	○			トレーナー実習２	アスレティックトレーナーとして検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラムができるようになる。	1前	30	1			○		○	○		
52	○			トレーナー実習３	スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの業務を実践できるような基礎づくり。	1後	30	1			○		○	○		
53	○			トレーナー実習４	アスレティックトレーナーの７つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1			○		○	○		
54	○			トレーナー実習５	アスレティックトレーナーの７つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1			○		○	○		
55	○			トレーナー実習６	アスレティックトレーナーの７つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

	（文化・教養課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
56	○			トレーナー応用実習１	本講義では、スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置、テーピングを身につける事を目標とする。	2後	30	1			○	○		○		
57	○			トレーナー応用実習２	アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
58	○			トレーナー応用実習３	アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
59	○			トレーナー応用実習４	本講義では、アスレティックトレーナーとしての適切な傷害の初期評価及び応急処置ができる事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
60	○			生涯スポーツトレーナー実習１	障害者のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。	2前	16	1			○	○		○		
61	○			生涯スポーツトレーナー実習２	障害者のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。	2後	16	1			○	○		○		
62	○			フィットネスエクササイズ	有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。	2前	30	1			○	○			○	
合計					62 科目			94 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 全ての授業科目における単位（94単位）を修得。	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 本校に登校した上で、講義、実技、演習および実習を履修する。	１学期の授業期間	24 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。